

毒
算

不
死
鳥

皇女のカメラオ

DOJIN
R18

「東の国には、『嘴の無い不死鳥』がいて
不老不死と強大な力を得た代わりに
『愛』という感情のすべてを取り上げられた

不死鳥は、その長すぎる退屈を埋めるために
美しく、訳ありなものを探しているとか

『毒薬』とともに」

★あとかき★

本を手にとり下さり、ありがとうございます！
藤吉優希と申します！

この、「時速100kmの個性の塊」にて
不死鳥と毒葉ツリ-アツデアカ
という本に描かれたことが、今でも信じ
られます！

どうか、最後までお楽しみ頂ければ
幸いです。

全てのあとかきを自筆にしたかったのですが、
お察しの通り、とても字が汚いので、
このあたりは、フォントにて失礼いたします。

それでは！！

ふじよし

ゆうほ

藤吉優希

WARNING

18歳未満閲覧禁止です!!

※描かれているすべての登場人物は18歳以上です。

この作品はフィクションです。

実在の人物・作品・団体・出来事・場所などには一切関係ありません。

本書には以下の内容が含まれますのでご注意ください。

- 同性愛
- ファンタジー要素
- 暴力表現

●免責事項: 本作品に掲載されている情報、または本作品の利用によって生じたいかなるトラブル、損失、損害に対して作者は一切の責任を負うものではありません。

●本書の転載、編集、トレース、転売、使用を禁止します!

●Disclaimer: The author takes no responsibility for any trouble, loss, or damages resulting from the information posted on this work or usage of this work.

●DO NOT REPOST, EDIT, TRACE, RESELL OR USE MY WORKS!



オオオオオオオオ

ああああ
ああああ



はるか……

不死鳥と毒薬

― 皇女のカメオ ―









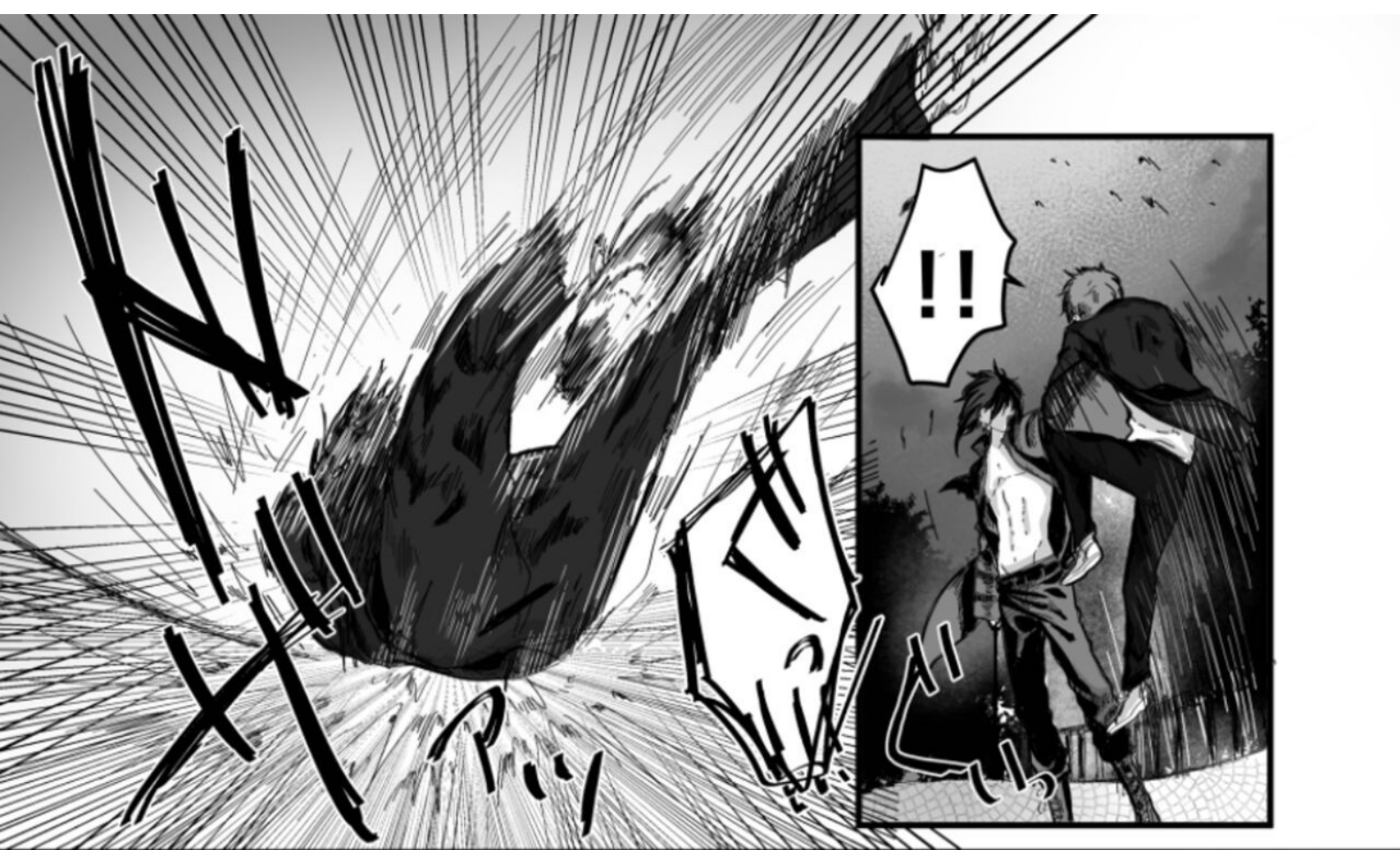
















こっちもなかなか
だったぜ

ハハ…



い、いやだ…
やめっ…



!!!



じゃあな、
坊主



た…頼む…
弟には…

手…出さないで
…くれ…俺は…
どうなっても、
いいから…

頼む…!!

—…あ?







どうしてアイツは
俺たちを狙う...?
カメオって
何なんだ...?

でもそれを
探さないと...
あいつはまた...



忠告って...

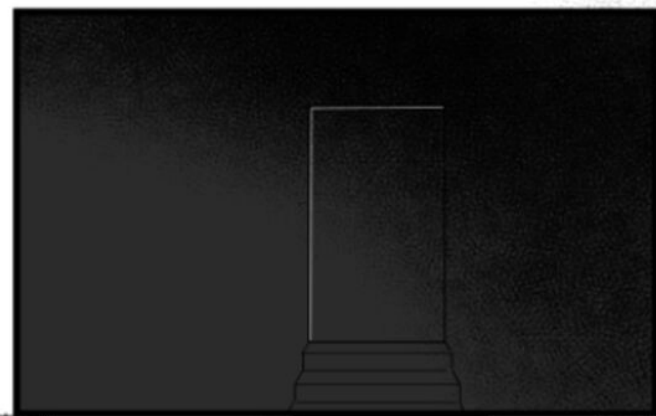
どういう
ことだ...?



...『あいつ』...?



『あいつ』には















ビ
ブ



親がそんなもの
持ってたことも
知らないし...
もう亡くなってるし...
うちには
もう...







ずいぶん
楽しそうなこと
してるね

僕も混ぜてよ

いいでしょう？
アサト









話せ……!

あ……ッ……

君の知ってること、
教えて欲しいんだ

僕、このカメオを
探してるんだよね
だから



アサトから
聞いてると
思うけど……

か……



価値がないと
思ったら
すぐに殺されるぞ……

アイツは
気が短い……

何でも良いから、
心当たりの
あることは話せ……
話を途切れさせるな……



その写真は……
事故の日に
撮ったもの
だけ……

事故後の
遺品とか……
車からも……
出てこなくて……

派手に車も……
燃えてたから……
一緒に焼けちゃっ
たかもしれない
っというか……



んな……こと……
言ったって……

あ……、え……
その……カメオ……
母親が持ってた……
ほいん、ですけど……

もう……
8年前に、
死んで……



なんとか
納得させて
ここから
離れさせるしか
道はねえ……





挑発に乗るん
じゃねエ...!
マジで弟が
死ぬぞ!



ハルカ!!

だから僕にはまだ
君たちが持つてると
わかるんだよね



何でも良いから
必死で思い出せ

いいか、アイツは
嘘つきだが
今いってることは
多分マジだ



随分とその子に
肩入れするね
ま、いいけど♡



これは透くん
の脳の画像だが

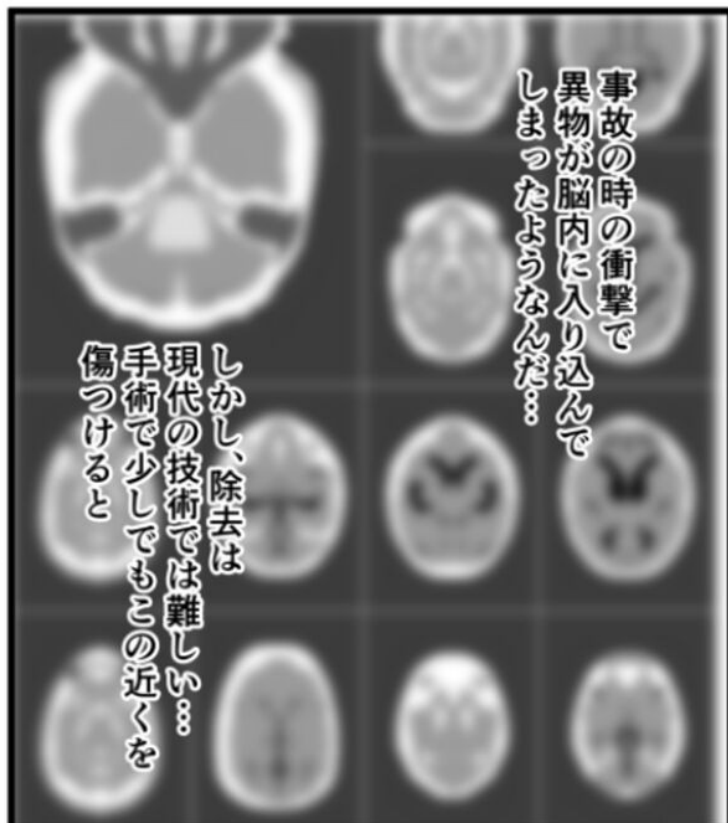
この影がわかるかい?



事故のあと
他に何か
無かったか

そんなこと...
いわれ、たつて...

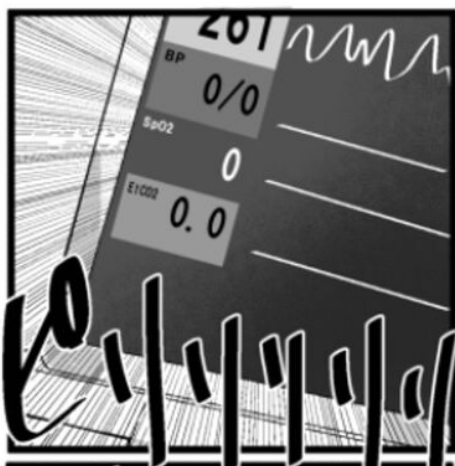
...透くん...残念だが両親は...
弟の透くんも...
意識が戻ることはないだろう...





それを出して
みればいいんだ♡











なんでっ…!!



遙っ…

あああ…!!
なんでっ…



ハルカツ…!!



…誰…?

つあ…つ…



ちゃん…??

…お兄…



…っ…!!





ありがとう!!

あ...あの...

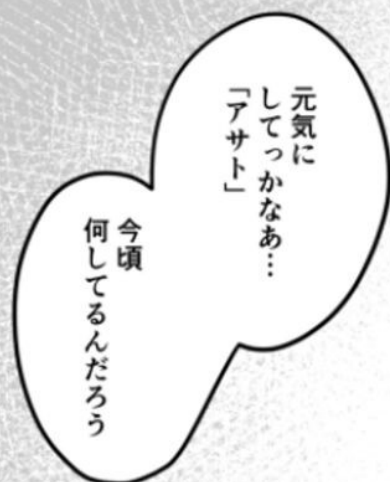


ハッ...



お人好しの
バカめ

じゃあな





はあ…
気持ちいい…♡
楽しいねえ、
アサト♡

君もそう
思うでしょ？

…ああ……

そうだな……

【登場人物・詳細紹介】

木下 透(キノシタ トオル)

18歳 身長：175cm/体重：68kg
県内の高校に通う高校3年生。
剣道は中学のころから
全国大会を連覇する腕前。
幼少期に家族が事故に巻き込まれた際に
何もできなかったことを悔いており、
強くなって弟を守りたいと思っている。
将来の夢は警察官。
気は強いほうだが年齢よりも
落ち着いており、弟の遥のほうがやんちゃ。



皇女のカメオ

はるか昔に実在した、皇女の肖像を刻んだカメオ。
政治的策謀により家族に裏切られ
16歳と3日という若さで見せしめのように凌辱・処刑された悲運の女性。
彼女が16歳の誕生日を迎えたときに、
両親が彼女にプレゼントしたのがこのカメオである。
処刑されてから彼女は歴史上存在しない人物として扱われ、
記録に残っているのは兄と妹のみ。

以降、このカメオを手にした者とその家族は非業の死を遂げるとされ、
日くつきの品として闇に流れていった。
しかし、一目見ると手に入れたいくなるほどの魅力を持っており、
今までに呪いを受けた人間は相当な数に上る。

京介/アサト

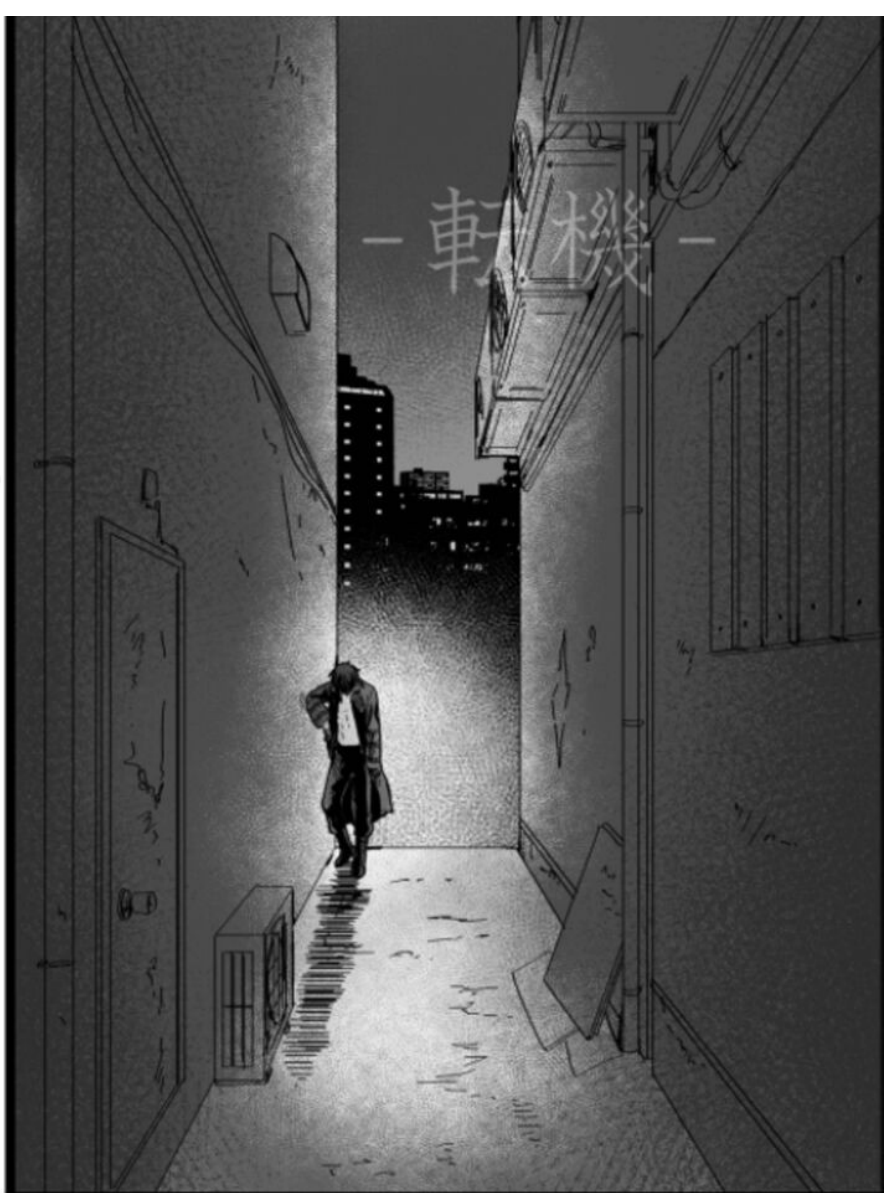


京介

その姿を見た者は、口をそろえて「絶世の美男」というほどの容姿を持つ男。その正体は「愛」という感情のすべてを持たない化物。愛がない故に良心もなく、あるのは性的快楽への底なしの欲望と奇妙で美しいものを収集し、愛することへの興味のみ。美しい外見とは裏腹に、「悪趣味の塊」のような内面を持つ。気まぐれで嘘つきなうえ、狡猾で残酷な面をも持ち合わせている。自ら「造った」息子のアサトを従わせ、退屈しない日々を求めている。

アサト

京介に追従している、ガスマスクを身に着けた男。粗野で粗糞、常にやる気がなさそうな気だるげな様子だがヒステリー気質で、一度火をつけてしまうと非常に厄介。特に、異常なほどの戦闘狂で、戦闘中に得た刺激はすべて性的興奮に繋がるほど。京介の護衛のように見えるが、実際は彼の息子であり、情夫。本人は男に抱かれることを心底嫌がっている。体液や分泌物のすべてに非常に強力な薬物効果があり濃度をコントロールすることはできるものの、普段は面倒なためガスマスクをつけている。常人では吐息がかかるだけで昏倒するほど。



ガキを
レロプ
しちまっ
たアッ
ッ!!

かッ
はッ

クソッ...

あッ
ッ...!!

か



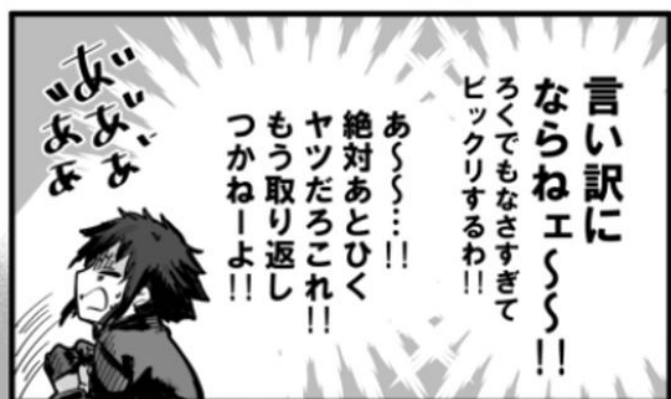
でも一応
俺だって
怪我させねー
ように
軽く蹴り
飛ばしたのに…

アイツが
手エ出して
来るから
こんな…



クッソ…ガキに
手を出すときは
せめて合意の上で
するって決めてた
のに…

一発いいの
もらったら全部
ふっとん
じまった
…!!



言い訳に
ならねエ…!!
ろくでもなさすぎて
ビクビクするわ!!

あ…!!
絶対あとひく
ヤツだろこれ!!
もう取り返し
つかねーよ!!

よいよいよい



アイツと同じ…

これじゃ
まるで…



クッソ…



こうなりや
せめて…

ハァ…



ガキどもの
命くらいは…

中央総合病院

ここまで本編を読んでいただき、ありがとうございます！
「これってBL…？」っていう内容になってしまいました…
お付き合いくださって本当にうれしいです！

今回本編とその後の話の間に入れたのは、
本編に差し込みたかったけれど全然差し込みどころのなかった
「なんでアサトがいきなり透に肩入れしてるのか」
という理由です。

よくわからないなけなしの倫理観によって
自分がされていて酷く辛いことを、自分より弱い相手にしてしまったー！
というところが大きいですが
それ以外にも、透の家族を思う気持ちにぐっときたというのもあります。
自分の親はこーんなにもろくでもないのに、
こんなに家族を思えるんだなあ、と感動してしまったのでしょ…。
作中でそれを表現できなかったのが悔やまれますが(笑)

というわけで、本編はここで終わりですが
この後は5年後の透と京介・アサトの話になります！
18歳だった透も23歳になり、体格も大きくなっており…
登場人物が成長するという禁忌を犯していますが(笑)
この後はガッツとBLエロ展開になりますので
心してお進みください(笑)



不死鳥と毒薬
皇女のカメオ

—楔—

俺には

感謝しても
しきれない…
そして

同時に
どうしても
許せない
男がいる…

おや

そもそも
日本に来るのは
久しぶりだし

君のほうから
ここまで
たどり着くのは
結構難しいと
思うんだけど…

君とは縁が
あるんだねえ…
えーと…



…僕に用事じゃないんでしょ？



まあいいや



木下透くん

どうやって僕らの居場所を
知ったのかは
気になるけど…



ちょうど今日は
外に出る用事も
あるし

ふふ…
いいよ、たまには
「良い人」になって
あげても

あの…ッ…



ああ、
君って本当
いい匂い♡

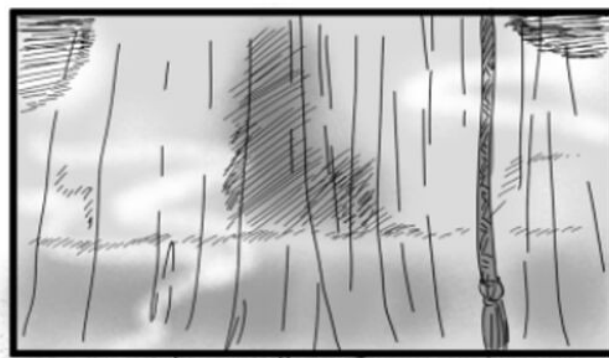


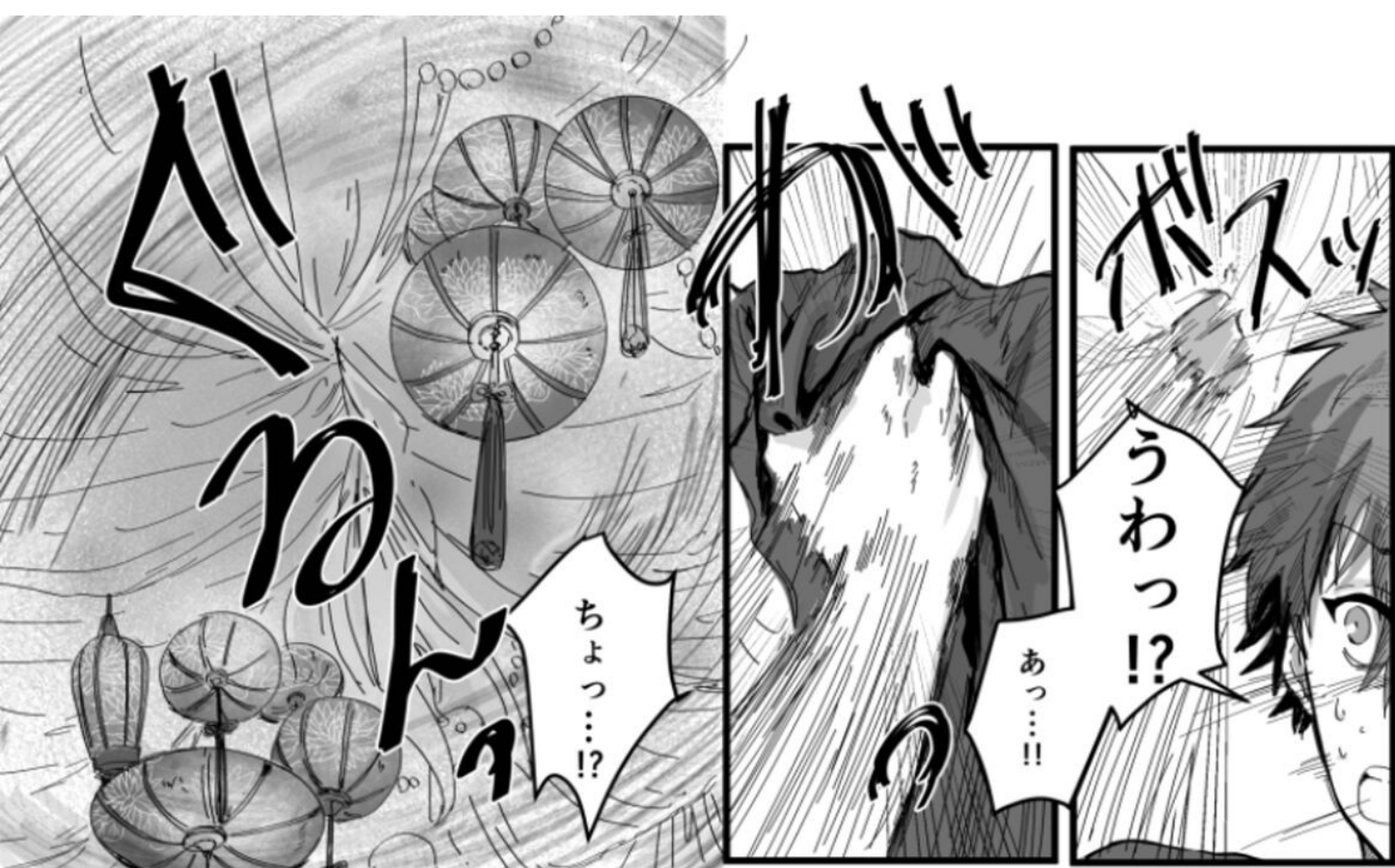
「お楽しみ」を
残しておいて
くれるならね

僕にも



それに





バカとは思ってたが
まさかここまでとはな!!
平和ボケしてんのか!?

京介とツラ
合せてンなら
わかんだろうが!!
今頃死んでもおかしく
ねェんだぞ!!

そんなに命を
粗末に
してェんなら
今俺が

アサト!!

ごめんアサト
お前の
言ってることが
全部正しい

本当、悪いと思ってる
俺はどうしようもない
バカだ

……お前と
話がしたい

……つーか
さっきのアイツの
言葉の意味

それで? その
救いようのない
バカ野郎が

命をなげうってまで
俺に一体どんな
ハナシがあるって?

チツ……!











散々
引っ張り回して
答えは
出たのか？



で？



お前は忘れてる
ようだが…



え……
何考えてるか
なんざ
知らねーけど



……ああ……



わかってる



こっちは話を
聞いてやる
必要なんて
ねえんだぞ



ル
ッ

これで最後
だから!!

ハア…!!?



じゃあ…

なあ、
アサトは…



何か今、
やりたい
こととか…
ないかな



それが終わったら…
ちゃんとまとまると
思うから…

だから…



喧嘩
しようぜ



わかったよ
じゃあ



…クソ…



頼むよ…



あ
やりてー
ことなんか
それくらいしか…

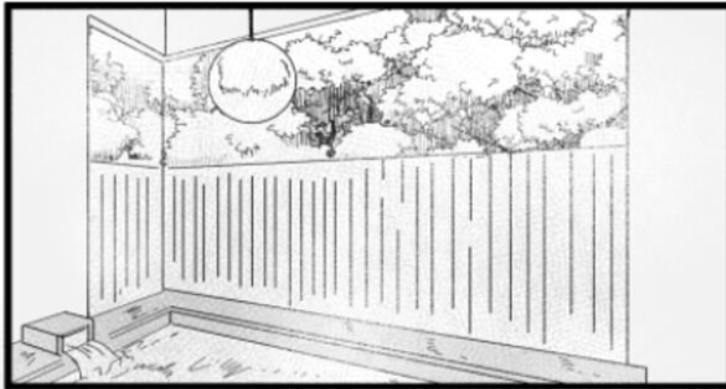


んだよ
つまんねーな



ダメに
決まってる
じゃん!!

俺
さっさと
帰るぞ!!



風呂に
入りたい



はあ〜…

ご……ごめんな……
家族風呂があるの
この旅館だけで……

しかもアサトに
お金出して
もらって……

別に……

……朝から
そのまま
気持ち悪かったし

京介も金だけは
自由にしていいっ
つってたから
いいだろ

っーか

見すぎ
だろ

いや……
そんなッ……!!

そんな?
一日中じろじろ
見てたくせによ

み、見てない!!
見てないって!!

は?
俺が気付かかえ
とでも?
相変わらず
アホだな

これから
自分を抱く
男の品定めでも
してんのか?

それとも、元々
男が好きとか?

あ……
もしかして



俺に犯されたの
思い出して

興奮するとか?



……



しゅわーん



先行くわ



ほろり



だんまり
かよ

つまんねーな



アサト……!!

ま……待って

かきしゅわ



お前達が
去った後



今どうしてる
だろうとか

どうして俺に
あんなことを
したんだろう
とか

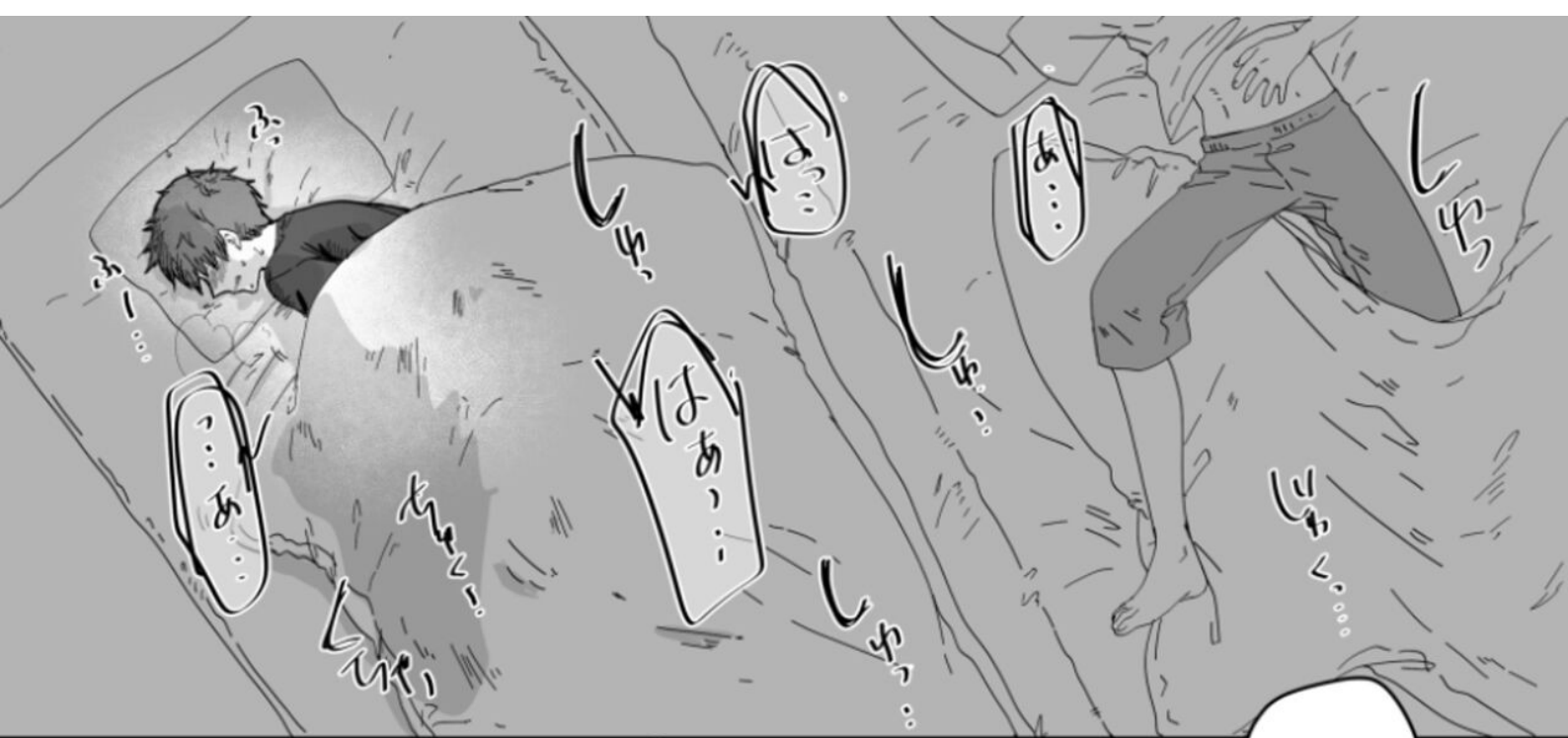
今もあの
恐ろしい男と
一緒に
いるのかとか…

目を閉じると

"あの時"を
思い出して
息がつまるのに…

同時に

お前がまた
"奪われて"
いるのかと
思うと…



そのたびに...
わからなくなる

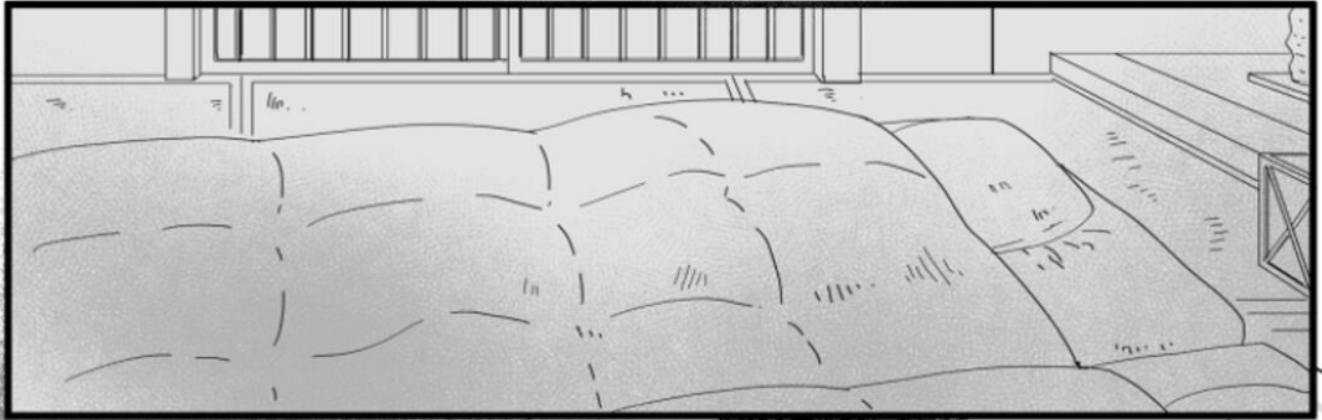
確かにお前に
感謝してる...
でも...



わからなくて頭が
グチャグチャになって
苦しいんだ...ずっと...

それとも...
他の何かなのか...







HAJI METE











想像とは

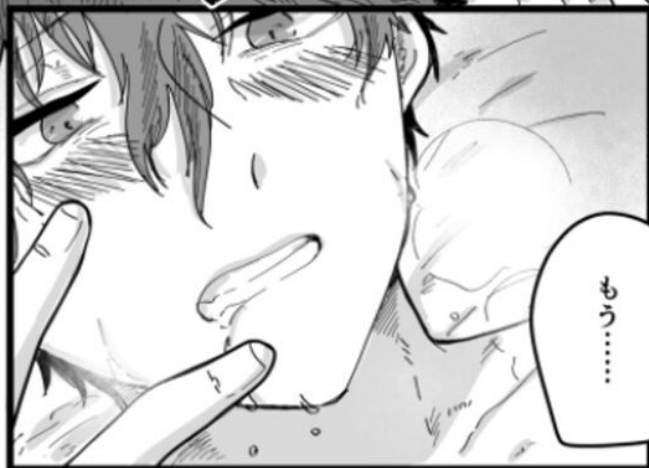
比べ物にならないくらい…



アサトの手も…舌も…



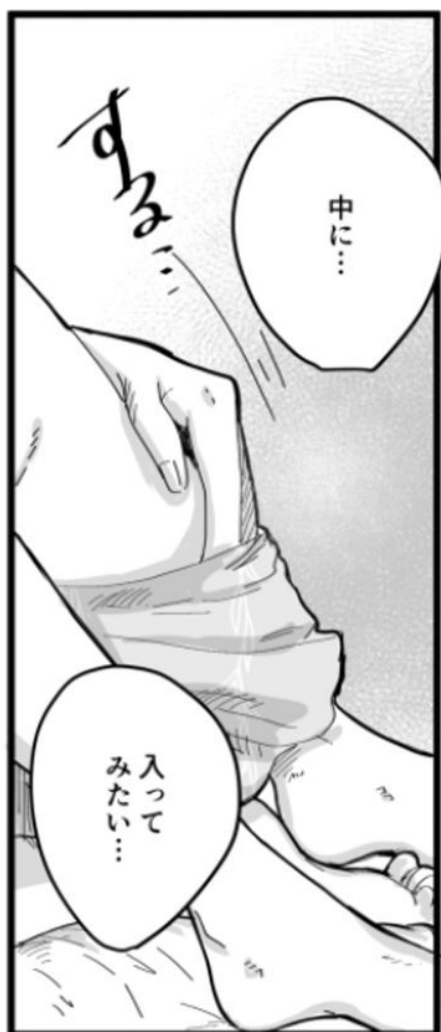
気持ちいい……っ…



もじ……



アサト……





はは…
がつついてんなあ…
逃げねエって

そうそう…
ちゃんと狙えよ



のしー



そのまま…
…ツ…ア…



おん



とん

おん

おん

おん









クソ…
童貞が…

好き勝手
しやがって…



ふん…
それなら
俺も

遠慮なく

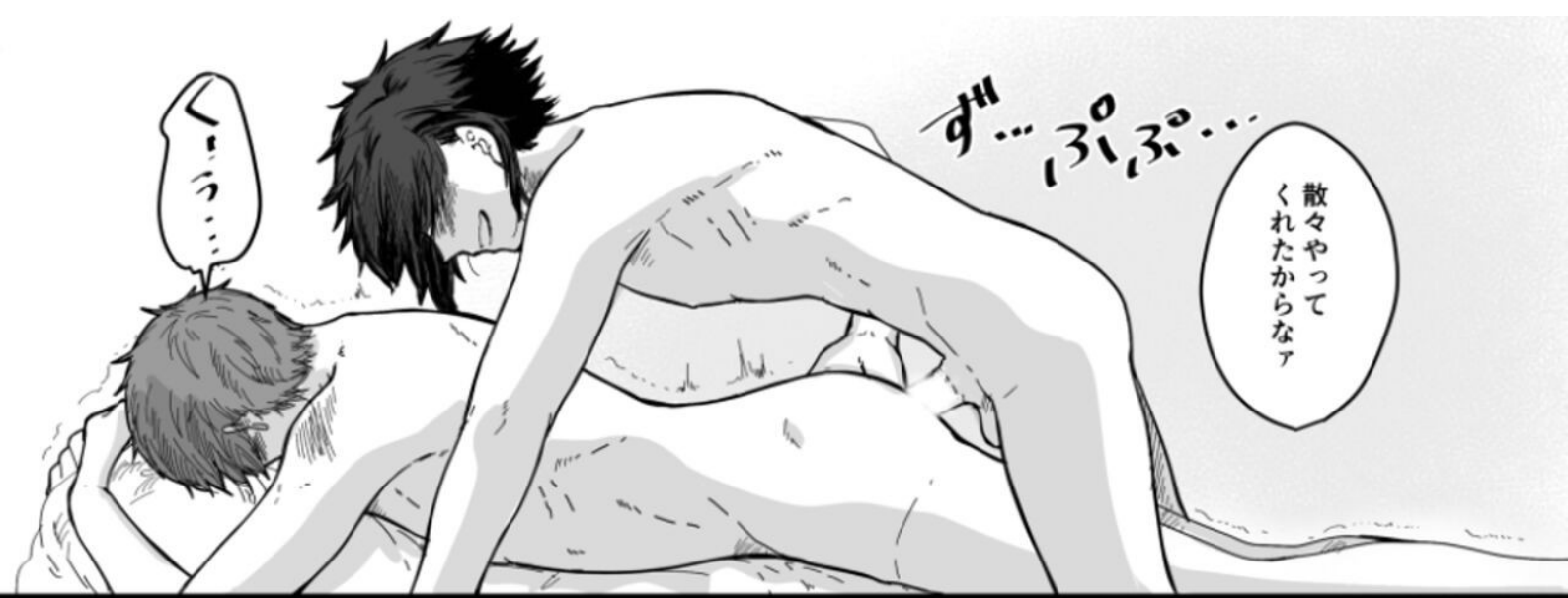
ななあ…!
この格好めちゃうちゃ
恥ずかしいんだけど…!!



痛エのは
イヤなんだろ?
あー…でも

あんますると
クセつくしな











それから…

アサトは一回って
言ってたのに

何度も俺を
受け入れて
くれて



俺も…
何度も…



朝が来るまで
ずっと……



結局……



結局
二微かよ…

はア…
クソ…



……うん…



そんなやまあ
お前の気も
済んだだろうし
これで
サヨナラだ
永遠に



その…本当に
ありがとう…
俺のワガママに
付き合ってくれて…
今日のことは…
一生忘れない
と思う…
でも…



あのさ…
アサト…



……



色んなところ
連れ回して…
迷惑だし…
つまんなかった
よな…



ごめんな

一言も
言っていない

つまらないとは

じゃあな





今回の書下ろしページで『禊』を書こうと思ったのは、単純に透とアサトのエロが書きたかった…というのがありますが(笑) 本編を書いていた時から、どうしてもアサトが透にしたことを贖罪できてなかったな~というのが引っ掛かっていたからです。いくら弟を救ってもらったからといって、それとこれとは別だろうと…。透の心に深い傷をつけたままめでたしめでたしで良い気がしませんでした。A型だからでしょうか…。

『転機』でも描いたように、アサトは自分の性癖と欲望に任せて透を犯してしまったことを後悔しています。なので、透が来訪したとき、絶対あの時のことだろ~~!!と察しはついていますが(笑) アサト的にはやったことはやったことなので、償えと言われれば殴るなり刺すなり気が済むまでさせてやるつもりでしたが、全然核心に触れてこない透に「はよせえや!」とイラ立って前半あんな不機嫌だったりします。何度も自分からそのことに触れて煽っているのも、話題を誘導してるつものようです。(プライドが高いので、素直にあの時はすまなかったとは言えないし、謝ったところで…とも思っています)

対する透は、モヤモヤしつつも人がいいので、されたこと自体は恨んでいないのですがトラウマの克服の結果、妙な性癖に目覚めてしまって悩んでいる状態です。なお、アサトを引っ張りまわしたのは、得体のしれない男のアサトにだって自分が理解できる部分がある!と思いたくて提案した…という流れです。(ありませんでしたが)あとは普通に、せっかく再会したアサトと楽しい時間を共有したかったのでしょう。アサトの境遇に思うところもあったようです。このコースは、弟の遥が目覚めた後、連れて行ったコースでもあります。

そんなこんなで、透の中でも少しはトラウマが解消できた?かな?と思いますが本来ならここで森(一般社会)に返す予定だった透ですがなんか気に入ってしまったので「永遠にサヨナラ」と言われてますが多分今後もなんかの縁によってアサトらと会うことになりそうです(笑)それはまた、別のお話ということで…。



